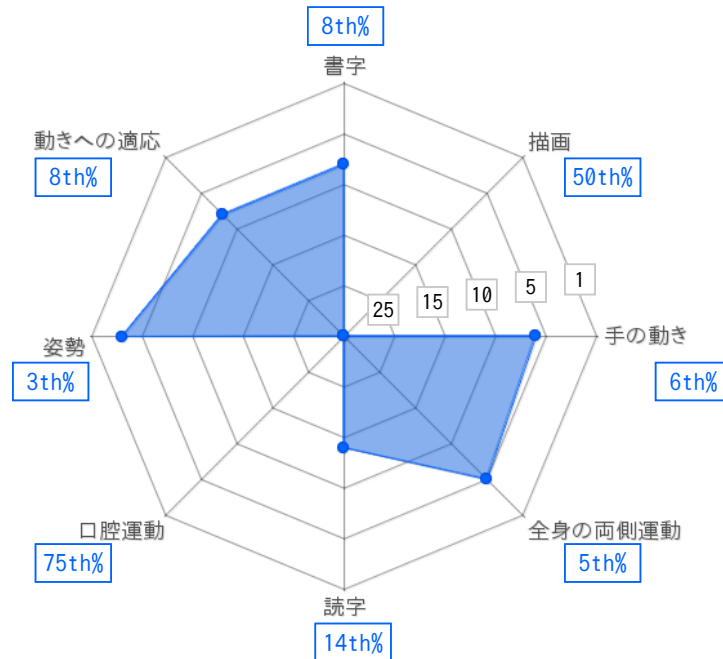


動作要素ごとのスコア

ヘイセイ 殿

実施年月日：2019年04月09日

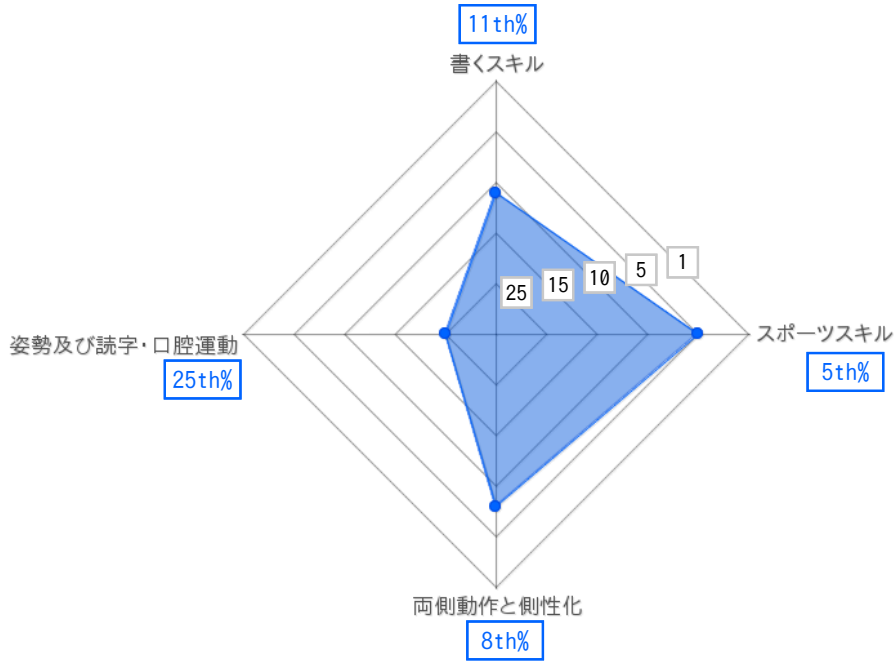


書字	文字を書くことに困難があるようです。 書字に関する支援を検討した方が良いでしょう。手先の協調運動についてアセスメントしたり、文具の工夫をしたりすることが必要かもしれません。
描画	描画のスコアは標準の範囲内でした。
手の動き	手を使った細かい作業、指先を使った両手動作などに困難があるようです。 手先に力を入れることや協調運動をする際に支援が必要なことがあるでしょう。手を使った生活動作ができるようにするための工夫が必要となるでしょう。
全身の両側運動	両手両足を協調させる動きに困難があるようです。 両手動作、全身の両側運動が改善するための支援が必要となるでしょう。
読字	文字を読む際に眼をスムーズ動かすことに困難があるかもしれません。眼の動きがスムーズにできるか確認する必要があるでしょう。 文章を読むことの困難がある場合、眼球運動だけでなく読字能力に問題がないかを確認する必要があります。文字から音、意味につなげることや言葉の知識に問題がないか確認することも必要です。また、不注意が読み飛ばしの原因になることもありますので、注意力のアセスメントも必要です。
口腔運動	口腔運動のスコアは標準の範囲内でした。
姿勢	姿勢を調整したり、維持したりすることに困難があるようです。 バランス機能、姿勢維持機能について、アセスメントする必要があるでしょう。
動きへの適応	リズムに合わせた動き、タイミングをはかる動き、球技などに困難があるようです。 そのような動きが入る活動では苦手となることを想定して、学校などで行う運動の予習をしておくといいでしょう。

因子ごとのスコア

ヘイセイ 殿

実施年月日：2019年04月09日



書くスキル

文字を書いたり、絵を描いたりするスキルは他の子どもと比較して目立たないようですが、下記の点にご注意ください。

文字のバランスの問題や筆圧の問題は、中枢神経系の障害に基づく運動障害に基づくこともあるため、上手く書けていない場合も叱責しないようにしなさいといけません。文字の練習は子どもの苦手意識が強まらないようにすることが重要です。書字の練習をする際には、落ち着いて文字を書くことだけに集中できる状況を作った方が良いでしょう。

マスがついた用紙のほうが良いでしょう。紙やすりを下敷きにしたリ、凹凸シート(オフィスサニー)を用いたりすると文字が枠からはみ出しにくくなったり、文字のバランスが整ったりすることがあります。

ひも結びが苦手な場合は、左右の紐の色が異なると結び方がわかりやすくなる場合があります。どうしても靴ひもを結ぶことが難しい場合は、ダイヤルを回すと締まる靴(写真M-2)や靴ひもの代用品(写真M-3)を使うと良いでしょう。

はさみは1回切りから教えると良いでしょう。はさみの取っ手の内側と指の隙間を埋めるように取っ手の部分にテープを巻いて隙間がなくなるようにすると開きやすくなります(写真M-4)。



写真M-2. ダイヤル式の靴



写真M-3靴ひもの替わりのゴム

書くスキル	 <p>写真M-4はさみの取っ手の内側を狭くする</p>
スポーツスキル	<p>体育の課題やスポーツのスキルは他の子どもと比較して目立たないようですが、下記の点にご注意ください。</p> <p>やるべき動き、体操などを覚えてしまうとやり方がスムーズになることがあります。丁寧にやりかたの順番などを教えて覚えてもらうことが必要でしょう。</p> <p>体育などで新たな運動を学習する際には、あらかじめやり方を教えておいたり、運動の予習をしておくことが望ましいでしょう。</p> <p>球技はまず個別でボールの扱いを教えることが必要です。大きなボールを使ったり、大人が相手になってゆっくり投げたボールを受け取ってもらうなど、スモールステップで成功体験を重ねてもらいながら、スキルを高めていくと良いでしょう。</p> <p>筋力、筋緊張が低い可能性があります。ぶら下がり運動をやってもらったり、普段の生活の中で、指先に力を入れる活動を多く行ってもらいと良いでしょう。牛乳パックやお菓子の袋を途中まで大人が開けておき、子どもに開けてもらうなどの方法は指先に力を入れる機会を作ります。</p>
両側動作と側性化	<p>左右の手足を協調させて動かすことや利き手の発達を反映するスキルには大きな遅れはなさそうですが、下記の点にご注意ください。</p> <p>両手に同時に力を入れて協調させることが苦手なようです。握力や腕全体の筋力を高めることも課題となるでしょう。</p>
姿勢及び読字・口腔運動	<p>姿勢を保つことや読字・口腔運動の問題は他の子どもと比較して目立たないようですが、下記の点にご注意ください。</p> <p>椅子に滑り止めマットを敷くことは臀部のずれを防ぎます。</p> <p>背もたれをなくしたり、バルーン椅子を使ったりすると姿勢が保ちやすくなる場合があります。</p> <p>授業中に立ち上がったたり、動く機会を作るとその後の姿勢が良くなる場合があります。</p> <p>普段から、バランスを育てる活動をするとう良いでしょう。</p> <p>片付けの時間を設定し、じっくり集中して片付けるようにしてもらおうと良いでしょう。片付け以外のことをしない時間を設定したほうがうまくいきます。所定の場所に片づけるのが苦手な場合は、大きなかごなどに片づけて置き、時間があるときに整理するなどの方法が良いでしょう。</p>